

海外安全対策情報（2024年1月～8月）

1 社会・治安情勢（コントロールリスクス社提供概要）

（1）テロ情勢

ア 傾向

- ・ コントロールリスクス社の調べによると、パキスタン国内において 2024 年上半期の武装集団による攻撃は、前年同期比で 78%増であり、攻撃のほとんどは、K P 州とバロチスタン州で発生している。死傷者数はバロチスタン州 96 人と 46%減、シンド州では 15 人で 32%減となっているが、引き続き警戒が必要である。
- ・ カラチ市では6月中旬、テロ攻撃に対する警戒情報が発令されたほか、シンド革命軍幹部による「中国はシンド人を奴隷にしており、シンド人にとって最大の敵」旨宣言がなされており、引き続きC P E C事業を中心に、中国人及び中国権益への攻撃が予想される。
- ・ 7月から8月にかけては、治安当局によるバロチスタン州の分離主義運動に対する掃討作戦が実施されたほか、シャリフ首相によるT T Pに対する強硬姿勢もあり、対立激化は避けられない見通しである（T T P側も公立校や病院、警察や軍人の自宅を標的にするよう指示を行った模様）。
- ・ カラチやハイデラバードなどでは、テロリストの摘発が相次いでおり、8月14日の独立記念日におけるテロ計画が明らかになったほか、自爆ベスト等が押収されている。
- ・ 8月25日から26日にかけて、バロチスタン州内で同時多発的に、バローチ分離主義勢力によるテロ事件が発生。標的は治安機関及びパンジャブ人であり（特にムーサーヘールでは、武装集団が高速道路を封鎖し、停車させたバス等に乗車していたパンジャブ人を特定し殺害する事件が発生）、シャバース首相以下主要閣僚及び陸軍参謀長が現地入りしテロの根絶に向け連邦政府も全面的に支援する旨表明した。

イ 主なテロ事件（直近3か月）

- ・ 5月10日 バロチスタン州トゥルバット
C P E CのM-8高速道路を武装集団が封鎖し、トレーラー数台を焼き払うも運転手は無傷で解放。
- ・ 5月17日 カラチ
C T Dと情報機関の合同作戦により、指名手配中のT T Pテロリストが逮捕。
- ・ 5月21日 バロチスタン州パンジグル
約20人の武装集団が治安部隊検問所を襲撃し、治安機関員5人を人質に取り、武器や車等を強取。
- ・ 5月25日 バロチスタン州マストウング
B L Fが鉱物を積んだトラックを襲撃。タイヤの空気を抜き、走行不能にした上で「バロチスタンの資源を略奪・搾取することは誰にも許されない」と主張。
- ・ 6月1日 バロチスタン州バルカン
B L Fが携帯電話の電波塔を放火。バルカンにおけるB L Fの犯行声明は初。
- ・ 6月3日 カラチ市ソフラーブゴート

銃撃戦が発生し、警察官 1 名が死亡。

T T P が非公式チャンネルで犯行声明を発出。

- ・ 6 月 15 日 バロチスタン州カラート
B L A が貨物車両を襲撃。
- ・ 6 月 19 日 バロチスタン州クエッタ
税関職員パンジャブ州住民 10 名が B L A により拉致。B L A は身分証を確認した上で拉致を敢行。
- ・ 6 月 24 日 バロチスタン州カラート
パキスタン軍基地を B L A が襲撃し、少なくとも 11 人の兵士が死亡。B L A はロケット砲や重火器による攻撃を敢行し、治安機関の前哨地 2 か所を占領したほか、メインキャンプを 12 時間占拠し、武器・弾薬を強奪し放火。
- ・ 7 月 24 日 シンド州カシュモール
バロチスタン州スイからカラチに至るガスパイプラインが爆破。パローチ共和国防衛隊（B R G）が犯行声明を発出。
- ・ 7 月 31 日 シンド州ゴートキー
警察官 3 名が襲撃され死亡（襲撃者は不明）。

（2）一般犯罪情勢

ア 傾向

- ・ カラチ市をはじめとした都市部での一般犯罪収束の見通しはない。
カラチ市での最大の懸念事項は街頭犯罪対策であり、監視カメラが増設されているほか、機動性の高い部隊の導入や新たな警察組織の創設等が検討されているが、大きな効果は生まれていない。
- ・ 警察への信頼が低い中、私刑が横行し、自己救済のための攻撃（反撃）も多く、社会活動家やジャーナリストに対する襲撃、宗教間対立による殺害事件も散見される。いずれも双方が、合法・違法武器を所持している可能性が高く、巻き添えにならないよう注意が必要である。
- ・ エネルギー高騰に対する抗議デモは頻繁しており、7 月には、市内各地でトラクターによる道路封鎖が敢行された。現時点、大きな暴動には発展していないが、今後の動向に注意が必要である。
- ・ 5 月～8 月中は、イード、アシュラ、独立記念日、チェヘラムなどの行事が行われた。
特に、イード時期は犯罪が多発したほか、独立記念日では祝砲により 95 人が重軽傷を負った旨報道された。
チェヘラムにおいては、前日の 25 日、スンニ急進派政治団体 A S W J が行事のために集結していたシーア派キャンプ付近で行進を行い、互いに衝突、銃撃戦に発展した。本事件も影響し、シンド州政府はカラチ市をはじめとする各都市で、携帯電話・インターネット利用制限を実施した。

イ 主な一般犯罪事件（直近 3 か月）

- ・ 5 月 1 日 ナージマバート

強盗 2 名が市民の抵抗に遭い、1 名が死亡、1 名が負傷し逮捕。

- ・ 5 月 6 日 オーランギー

商店に対する強盗事件が発生。犯人が逃走を試みるも、店主によって射殺。

- ・ 5 月 18 日 シンド州警察長官の発表

1 月 1 日～5 月 15 日までの間で、カラチ市内で 546 件の警察と犯罪者の銃撃戦が発生し、76 人の容疑者が射殺され、2,249 人が逮捕。シンド州全体では 1480 件の銃撃戦が発生し 146 人の容疑者が死亡、7,696 人が逮捕。

- ・ 6 月 1 日 グルシャネ・イクバール

拳銃使用の強盗事件が発生。被害者は右肩を銃撃され負傷。

- ・ 6 月 9 日 ARY ニュース報道

2024 年に入って少なくとも 75 人が路上犯罪で殺害されたと報じる。カラチ市内の East エリアが 19 件で最多、次いで West エリア、コランギと続く。

- ・ 6 月 10 日 ケマリ

ビジネスマンの誘拐と恐喝に関与したとして、TTP のメンバーがケマリ地区警察署内にて殺害された。所持品からは手榴弾やカラシニコフ銃が多数押収。

- ・ 7 月 4 日 カラチ

教師のグループが職務の正規化を求めシンド州議会に対し抗議活動を行っていたところ、警察が催涙ガスや警棒で制圧。

- ・ 7 月 7 日 カリーマバート

テロ対策局の DSP が職務を終え帰宅中に襲撃され死亡。

- ・ 7 月 19 日 ウォーター・ポンプ・ブリッジ付近

警察官 1 名が帰宅中、襲撃され射殺。拳銃と制服が強取。

- ・ 7 月 23 日 ケマリ

食品製造業を営む男性が拉致され、5 日後、ラホールにて解放。事件の背景は不明。

- ・ 7 月 28 日 ランディタウン

警察官 1 名が襲撃され負傷。

- ・ 8 月 2 日 ハイダラバード

元法廷の警察職員が発砲し、少女と警察官 1 名が死亡。

2 当面の警戒を要する主要行事

- ・ 12/25 ムハンマド・アリ・ジンナー生誕祭
- ・ 12/31～1/1 越年行事

3 邦人被害事案

4 月 19 日早朝、カラチ市ランディータウン、セクター 20 において、日本人複数名を乗せた車列が襲撃される事件が発生した。この事件により、日本人 1 名が負傷した。また、日本人に帯同していた現地の民間警備員 1 名が死亡、同警備員 1 名が負傷した。

本件に関し、これまでのところ、犯行声明は発出されていない。

4 参考（テロ事件発生件数 1 月～7 月）

※在イスラマバード民間シンクタンク「パキスタン平和研究所」発出）

（1）カラチ市

カラチ市におけるテロの脅威は依然として存在する。

カラチ市のテロ発生件数（1 月から 7 月）は 9 件で、死者 10 名、負傷者 10 名であった（前年同期 7 件、死者 11 名、負傷者 20 名）。

2022 年以降、急増していたテロ発生件数は、現時点、横ばいとも評価できるが、引き続き情勢変化に注視する必要がある。

標的は治安機関、スンニ派宗教指導者、シーア派宗教指導者、政治家、外国権益であり、B L A、T T P、L e J が犯行声明を発出している。テロ攻撃のほとんどは銃撃である。

2024 年月別のテロ発生件数等は以下のとおり。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
発生件数	2	2	0	1	2	0	2						9
死者数	2	2	0	3	1	0	2						10
負傷者数	4	0	0	2	1	0	3						10

（2）シンド州（カラチ市を除く）

シンド州のテロはカラチ市に集中していることが分かる。

ただし、武装集団による犯罪行為（強盗、誘拐、殺人等）は散見されるため、州内移動には注意が必要である。

シンド州北部のインダス川北側域を中心に対ダコイト作戦が定期的に敢行されており、同地域への訪問は注意が必要である。

2024 年月別のテロ発生件数等は以下のとおり。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
発生件数	1	0	0	0	0	0	0						1
死者数	0	0	0	0	0	0	0						0
負傷者数	2	0	0	0	0	0	0						2

（3）バロチスタン州

バロチスタン州でのテロ発生件数（1 月～7 月）は、110 件で、死者 150 名、負傷者 225 名（前年同期 51 件、死者 107 名、負傷者 143 名）であった。

2 月のテロ発生件数の増加は選挙が影響しているものの、全体的にテロ活動の活発化が見て取れる。また、パンジャブ州やシンド州の州境におけるテロ活動の増加も指摘されており、更なる拡大に注意が必要である。

主な標的は、政治指導者であるが、非バロチスタン人（パンジャブ人等）の犠牲者も目立った。

BLA、BLF、BRAS及びISK/ISPPによるテロ攻撃が多くを占め、手榴弾やIED、銃撃によるものが多かった。

また、7月下旬には、グワダルにおいて「バローチ民族集会」による大規模な座り込みデモが発生した。デモ隊は「治安当局による、バロチスタン団結委員会に対する不当な掃討作戦」に抗議し、治安当局は「民族集会を装った暴徒による治安当局への攻撃があった」旨主張した。

同座り込みは8月9日、州政府高官とバロチスタン団結委員会の協議を経て解散した。

同州における情勢の変化に、引き続き厳重な警戒が必要である。

2024 年月別のテロ発生件数等は以下のとおり。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
発生件数	17	48	7	8	13	6	11						110
死者数	45	42	19	18	16	4	6						150
負傷者数	41	83	20	11	37	14	19						225

5 在留邦人の安全に関わる対策等

(1) テロ対策

- ・ 移動間は警護員を帯同させ、自宅においても警備員の配置を検討する。
- ・ 企業・個人等の情報や行事予定の共有は必要最低限にする。
- ・ 出退勤においては複数ルートを選定するとともに、出退勤時間を変えることが望ましい。
- ・ 治安当局からの要請のとおり、防弾車が準備できれば安全性は増す。
- ・ 治安情勢の変化に伴い、治安当局への応援要請も検討する。
- ・ テロの標的となっている場所（政府機関・軍・治安当局、宗教施設、中国関連施設、米国関連施設）への立ち寄りや近づくことを避け、集会・抗議活動等には近づかない。

(2) 銃器使用による強盗（ガンポイント）対策

- ・ 警護員を帯同させる。
- ・ 銀行・両替商の利用者が標的とされやすいため、現地職員に業務を委託するなど被害に遭わない工夫をする。
- ・ 犯人はバイクや徒歩で近づいてくるほか、標的選定のために見回るケースもあることから、同じ場所に長時間滞在することを避ける。
- ・ 渋滞を避ける。

(3) デモ・抗議集会に関する情報収集

- ・ 渋滞に巻き込まれ、強盗等の被害遭遇を避けるため、ドライバー等を活用し、情報収集を行う。
- ・ 群衆は些細なことで暴徒化する可能性があるほか、当該デモ等が犯罪組織やテロ組織の攻撃対象になる可能性もあるため、決して近づかない。

(4) 安全に対する自己点検

- ・ 常に安全に対する問題意識を持ち、疑問点を確認する。
- ・ 安全対策に正解はなく、治安情勢に沿った対策を講じる。
- ・ 安全対策について、総領事館に相談する。

(5) 平時の留意事項

- ・ 緊急時の連絡体制・優先事項等を整備する。

※ 早期に必要な情報

- ・ いつ、どこで、誰が、どのような事件に見舞われているか。
- ・ （特に日本人の）安否・負傷の程度、現在も危険に晒されているのか
- ・ 現地職員が近くにいるのかいないのか
- ・ 治安当局等関係部署への連絡手段の有無
- ・ 事前の不審動向の有無
- ・ 近隣の治安機関（レンジャー・F C・警察）を把握しておく。

(了)